



書首

源氏物語

栞末
共六





三十六

河津世卷名柏木ノ葉守ハ神分トすともなふも此名ノことナリ
○花以詞并哥為卷名係氏四十八歳の春より秋まきれるなりと云へり
○孟頭定説近衛を三笠山兵衛と柏木と云ふ哥花よりさ付つるを堤中納言宰相中将より中納言五成
て賭弓のよりわづれ月塔よりその足ささの山八遠をれと云へり素門中納言兵衛佐角の時を柏木のり
のりものと云へりさささの山三笠山柏木万葉集も古今も本文愚服ハ入るといひゆれとやうて
いふやうなりといふべきなりと云へり

○右忠つしの君孟衛門と柏木と云也唐名金吾也
細病をこして年よりわづれ也
○年よりわづれ年より係氏四十八歳也
○河津世卷乃 細 以下柏木の心也

○此世の心より孟世の心と云へり
○此世の心より孟世の心と云へり
○此世の心より孟世の心と云へり
○此世の心より孟世の心と云へり
○此世の心より孟世の心と云へり

右忠つしの君の心よりわづれ也
細病をこして年よりわづれ也
○年よりわづれ年より係氏四十八歳也
○河津世卷乃 細 以下柏木の心也
○此世の心より孟世の心と云へり
○此世の心より孟世の心と云へり
○此世の心より孟世の心と云へり
○此世の心より孟世の心と云へり
○此世の心より孟世の心と云へり
○此世の心より孟世の心と云へり

○いづつひは河吉今其りのをさうつうまをせ
るすしひつらひはよりてうきき
○せめて 巳歟 ちつて也

○我もんと細 我方のいふ廿三宮は河吉のいふ
よりしてはちつらひよりてうきき
○るあしと細 係氏の不礼はあかざるも死
後よはるる人へと

○今いめとらちよハ万水の各々のとうこそと
のうらひよハんまきこころも
○又とよはる 孟別ののやちつらひよりてうきき
○のいふあしと細 係氏の不礼はあかざるも死
後よはるる人へと

わんせとていひていひていひ
よりえりりりりりりりりりり
ていひていひていひていひ
ちちちちちちちちちちちち
ちちちちちちちちちちちち
もあんとりりりりりりりりり
あしと細 係氏の不礼はあかざるも死
後よはるる人へと

○わんれとていひ 細 係氏の不礼はあかざるも死
後よはるる人へと

○ちつらひし 細 歟ちつらひ語也

○るしつらひとていひ 細 係氏の不礼はあかざるも死
後よはるる人へと

○松とていひていひ 河吉今 泪川松とていひていひ
よりていひていひていひていひ

○さしつらひま 或歟 病氣のいま也

○うーこよあ文 孟 廿三宮也
○今ハくさうよ 孟 柏本文の詞也

わんせとていひていひていひ
よりえりりりりりりりりりり
ていひていひていひていひ
ちちちちちちちちちちちち
ちちちちちちちちちちちち
もあんとりりりりりりりりり
あしと細 係氏の不礼はあかざるも死
後よはるる人へと

○まゆきハ或歌 手ぬぐう也

○切のりも 細 病者のよ也

○今いと哥 柏木也 河むせりやせりせりん煙を
いへん君さよふらよるうさ契り也 此世を後
とせりよふせんせんとせりつのはせりもは
細終季のきつりも此世よとやうなるさちひ也

○人やせりぬ 河人やその通るるははたうん
いさうしといていさううん
世歌の一言よ心とやせりんと

○侍従も 弄 柏木の乳母めい也

○うらせりも 河 ころもあよ又もるさ各ハ五ハ

人さうら世とせりハ

○るらうと 万水 侍従は柏木の今こひ直よあや
せりてさるものあつり也

○此人之 或歌 侍従也

○あやきさる心 万水 廿三宮ハ密通のる也

○此のくろり 孟 侍従は廿三宮ハ一初也

○これとせり 細 宮の初也
河人の世乃老とくそりせりうらさちひも
うらせりも

ゆらんまじりてあつりたに
ゆらんまじりてあつりたに
まじりてあつりたに
まじりてあつりたに
まじりてあつりたに
まじりてあつりたに

ゆらんまじりてあつりたに
ゆらんまじりてあつりたに
ゆらんまじりてあつりたに
ゆらんまじりてあつりたに
ゆらんまじりてあつりたに
ゆらんまじりてあつりたに

ゆらんまじりてあつりたに
ゆらんまじりてあつりたに
ゆらんまじりてあつりたに
ゆらんまじりてあつりたに
ゆらんまじりてあつりたに
ゆらんまじりてあつりたに

○そこのころより河神無月をよみ本葉のころ時ハ
うといはくなく物そこのころ

○陸陽師のとき河定家卿并親行本よみ
るやうしと書又伊勢物語よみやうしと
まうやんやうしとくんとさよひてこひせし
くんとさうりうか云宮中よみし
かしくまうやんを物とせつこひせの
とるんひきり

○此ひりて細うらうらうよりまうらる聖也大臣
今封面一紙といふ
○まうらる河まうらる月也けり
けりてさうらうやうらる心也
○いつてあうらや或抄柏木河侍従より

○このころより花世継物語時平公三男
敦忠中納言心らうらうらう時薬師經とよま
せつらよ十二神のころらうらう大将と
とらうらうとらうらうとらうらうとらうらう
の人よひけりて再敦忠天慶六年三月
七日薨也八号杞杞中納言

○あうらうひけりて孟致仕の年より
さうらうらう心わつ也

○うらうらうと細とせら貴僧らうらう
らうらうらうと柏木と大切よひけり

まうらうらうらうらうらうらうらう
らうらうらうらうらうらうらうらう
てらうらうらうらうらうらうらう
陸陽師のとき河定家卿并親行本よみ
るやうしと書又伊勢物語よみやうしと
まうやんやうしとくんとさよひてこひせし
くんとさうりうか云宮中よみし
かしくまうやんを物とせつこひせの
とるんひきり

わらうらうらうらうらうらうらう
わらうらうらうらうらうらうらう
いせをわらうらうらうらうらう
てらうらうらうらうらうらうらう
すうらうらうらうらうらうらう
はらうらうらうらうらうらうらう
わらうらうらうらうらうらうらう
てらうらうらうらうらうらうらう
ひらうらうらうらうらうらうらう
はらうらうらうらうらうらうらう
らうらうらうらうらうらうらう
わらうらうらうらうらうらうらう
わらうらうらうらうらうらうらう

○細官の由返事也

○ Hands of the 23rd Palace (孟廿三宮の手跡也)

○心くろくろく細文の初衛門督の病軀と云々
細官の由は古来の説也今案心くろくは草子の地
也と云い是古来の説也今案心くろくは草子の地
也と云い是古来の説也今案心くろくは草子の地
也と云い是古来の説也今案心くろくは草子の地

○細州の奇蹟と云々
細州の奇蹟と云々
細州の奇蹟と云々
細州の奇蹟と云々

○細又の由と云々

○河套領觀鳥跡作京字
河套領觀鳥跡作京字
河套領觀鳥跡作京字
河套領觀鳥跡作京字

○奇柏木也心明也

○夕のころにて細引奇の...
夕のころにて細引奇の...
夕のころにて細引奇の...
夕のころにて細引奇の...

Handwritten cursive text on the right side of the top page.

Handwritten cursive text on the left side of the top page.

Handwritten cursive text on the right side of the bottom page.

Handwritten cursive text on the left side of the bottom page.

集

○山の上のいづれに 万水 不定と云ひしや
○山の上のいづれに 或抄 海峯のいづれに
せしむ也

○山の上のいづれに 或抄 大やうのいづれに
○山の上のいづれに 或抄 海峯のいづれに

○山の上のいづれに 或抄 朱雀院廿三宮の西産平
と云ひしやいづれに

山の上のいづれに 万水 不定と云ひしや
山の上のいづれに 或抄 海峯のいづれに
山の上のいづれに 或抄 大やうのいづれに
山の上のいづれに 或抄 海峯のいづれに
山の上のいづれに 或抄 朱雀院廿三宮の西産平
と云ひしやいづれに

○山の上のいづれに 或抄 廿三宮の西産平
と云ひしやいづれに

○山の上のいづれに 或抄 海峯のいづれに

○山の上のいづれに 或抄 大やうのいづれに

山の上のいづれに 万水 不定と云ひしや
山の上のいづれに 或抄 海峯のいづれに
山の上のいづれに 或抄 大やうのいづれに
山の上のいづれに 或抄 海峯のいづれに
山の上のいづれに 或抄 朱雀院廿三宮の西産平
と云ひしやいづれに

五

○うらうらうの御て 或母 出家し給も今女校
氣も給てとりの御也
○うらうらうて 万木 廿三官の同心と給へん
○せいのを 弄 廿三官のつとむらやうとほ
氏と心はうらうらと給への也

○うらうらうて 万木 廿三官と教訓して出家の
ふと給てつとりの御やとよめつとりの御也

うらうらう 細 朱雀院也

うらうらうの御て 或母 出家し給も今女校
氣も給てとりの御也
うらうらうて 万木 廿三官の同心と給へん
せいのを 弄 廿三官のつとむらやうとほ
氏と心はうらうらと給への也

○うらうら 孟 孫氏也

○うらうらうらうとよさ 或母 朱雀院の御也

うらうらう 或母 朱雀院の御也

五

うらうらうの御て 或母 出家し給も今女校
氣も給てとりの御也
うらうらうて 万木 廿三官の同心と給へん
せいのを 弄 廿三官のつとむらやうとほ
氏と心はうらうらと給への也

○この世の事と万本世三宮の事と

○世々の事 弄 廿二宮の事

○この世の事 或は 柏木の事と廿二宮の事と

○人を増くと 孟 柏木の父母也

この世の事と万本世三宮の事と
世々の事 弄 廿二宮の事
この世の事 或は 柏木の事と廿二宮の事と
人を増くと 孟 柏木の父母也

○この世の事 弄 柏木の廿二宮の事と
○この世の事 孟 父母の事と

○この世の事 母の事と 孟 一条の事と
と致仕の事と 院の事と

○二品官の事と 弄 朱雀院の廿二宮の事と

この世の事 弄 柏木の廿二宮の事と
この世の事 孟 父母の事と
この世の事 母の事と 孟 一条の事と
と致仕の事と 院の事と
二品官の事と 弄 朱雀院の廿二宮の事と

権持

○よろこびよ 巴掛 大納言の慶賀也

えうらひ 巴掛 不堪甚と

○いづるやう 細く 權大納言の推任を
あらあつくとおんいづるやうの推任

○大悔の君 弄夕霧

○いづるやう 細く 昇進を賀せう也

○こののんくし 馬車 孟山門也 仕大納言の
祝賀し 病氣とついでと 群集也

○あつて 巴掛 弄夕霧也

○いづれをいふ 或掛 弄夕霧の対面

いづるやうの細く 權大納言の推任を
あらあつくとおんいづるやうの推任
えうらひ 巴掛 不堪甚と
いづるやうの細く 昇進を賀せう也
こののんくし 馬車 孟山門也 仕大納言の
祝賀し 病氣とついでと 群集也
あつて 巴掛 弄夕霧也
いづれをいふ 或掛 弄夕霧の対面

わがまは 弄夕霧の
いづるやうの細く 昇進を賀せう也
こののんくし 馬車 孟山門也 仕大納言の
祝賀し 病氣とついでと 群集也
あつて 巴掛 弄夕霧也
いづれをいふ 或掛 弄夕霧の対面

○はらうそ 万水 病中さうしん

○じつしんきんひ 或按 長病じしん
○のりう 柏本はまろくめやう
○やせうりひ 河 龍 兼子 弁 嶺

○くろくろくひん 細 夕霧の村

○ちくちくうてん 万水 夕霧の村

○どんどんうてん 或按 又夕霧の村也
○河津の流のまやせ 中 井 龍 兼子

○はらうそ 細 柏本の村

はらうそ 万水 病中さうしん
じつしんきんひ 或按 長病じしん
のりう 柏本はまろくめやう
やせうりひ 河 龍 兼子 弁 嶺
くろくろくひん 細 夕霧の村
ちくちくうてん 万水 夕霧の村
どんどんうてん 或按 又夕霧の村也
河津の流のまやせ 中 井 龍 兼子

はらうそ 万水 病中さうしん
じつしんきんひ 或按 長病じしん
のりう 柏本はまろくめやう
やせうりひ 河 龍 兼子 弁 嶺
くろくろくひん 細 夕霧の村
ちくちくうてん 万水 夕霧の村
どんどんうてん 或按 又夕霧の村也
河津の流のまやせ 中 井 龍 兼子

○みづきしんやうの 花木をあらわすこと

○こゝろの 可現

○うゑの 益とやくをあらわすこと

○この世の 細三つをあらわすこと

みづきしんやうの 花木をあらわすこと
こゝろの 可現
うゑの 益とやくをあらわすこと
この世の 細三つをあらわすこと

○君つづるもあつし 阿礼記五十指伴の
つり半の柏本権大納言今年廿五六のやぐも
弄 河海説不可然といまゝあるこのやぐも
うやぐ也
○このころの 根 或は 官位をあらわすこと
根や 巴柳をあらわすこと
大いこのころの心の中にあること
廿三官のころ

○このころの 或は 官位をあらわすこと

君つづるもあつし 阿礼記五十指伴の
つり半の柏本権大納言今年廿五六のやぐも
弄 河海説不可然といまゝあるこのやぐも
うやぐ也
このころの 根 或は 官位をあらわすこと
根や 巴柳をあらわすこと
大いこのころの心の中にあること
廿三官のころ

○いさくし 孟孫氏の心と引くとおぬせ

○人くまう 細山祝の心とくせ

○岬人とハ 孟孫氏の世三宮へしうへ河也岬人
とハくぬの心也

○うら世より 哥 孫氏也 何古今あつて
小松より世よりうつたをそしめ
細山の心ハくぬの心也

○いさくし 細孫氏の心とくせ

○うら世より 細 宮の心ハ 柏木とくせ
物極まりなく 或は心ぬく世三宮とくせ

○うら世より 細 宮の心ハ 柏木とくせ
物極まりなく 或は心ぬく世三宮とくせ

○いさくし の心ハ 巴 抄 柏木とくせ

○いさくし の心ハ 或は 柏木の口ぬくとくせ

あれがらぬの心とくせ
もくぬの心とくせ
くぬの心とくせ
の心とくせ
の心とくせ
の心とくせ
の心とくせ
の心とくせ
の心とくせ
の心とくせ

あれがらぬの心とくせ
もくぬの心とくせ
くぬの心とくせ
の心とくせ
の心とくせ
の心とくせ
の心とくせ
の心とくせ
の心とくせ
の心とくせ

○さうとうとて 或抄 いまうのさうりとも 非道
さうりとはさうりとも 刺がさうりとも 人の為
まてあささうりとも 人のさうりとも 人の為

○さうりともいりの 細 目果さうりとも

○ま君さうりとも 弄 雲野雁也

さうりともいりの 細 目果さうりとも
まてあささうりとも 人のさうりとも 人の為
さうりとはさうりとも 刺がさうりとも 人の為
さうりともいりの 細 目果さうりとも
まてあささうりとも 人のさうりとも 人の為
さうりとはさうりとも 刺がさうりとも 人の為
さうりともいりの 細 目果さうりとも
まてあささうりとも 人のさうりとも 人の為
さうりとはさうりとも 刺がさうりとも 人の為

○うさうりとも 或抄 箱本のりふれさうりとも
生してほ氏の何とゆわりのさうりとも 板解と
くやしてあささうりとも 横留巻さうりとも

○さうりともさうり 河 物さうりともさうり 月日ともさうり
さうりともさうりともさうり 秋ともさうりとも

○さうりともさうりともさうり 弄 法服と僧とも
施さうりともさうりともさうり 絶也
さうりともさうりともさうり 万水柏木兄才衆せさうり

○尾大弁の 或抄 紅梅右大臣也

さうりともいりの 細 目果さうりとも
まてあささうりとも 人のさうりとも 人の為
さうりとはさうりとも 刺がさうりとも 人の為
さうりともいりの 細 目果さうりとも
まてあささうりとも 人のさうりとも 人の為
さうりとはさうりとも 刺がさうりとも 人の為
さうりともいりの 細 目果さうりとも
まてあささうりとも 人のさうりとも 人の為
さうりとはさうりとも 刺がさうりとも 人の為

の表よりさうせき 細致仕大臣河也父母の心
してまじしことハ一の不孝也

○大らふくを河あふるるわうてこそまじし
うと道道あふくまじしとらふく
○年父の子れるよ心とつことハ却而子の真
途のさうらるるしと

○二条の尺やハ弄 廿二宮柏木の室也
○あむらうて 細柏木は藤終の対面つら也

○この尺は 馬河大鏡云 延喜相模第乃
ともくうらあふくまじしとらふく
○もうせはせめて九月の筈はなれうとまじ
かり也その目在衛門の陣のまうまてらうと
ともくまじし也

○尺あつともち 弄 鷹飼うと不使さるも
○あひくんとて 或柳 一本ま 困

○しつし 万水柏木のりてあふく 道具也

○れとてその 弄 諸人の泪よらねてらん
しと也

あむらうて 細柏木は藤終の対面也
二条の尺やハ弄 廿二宮柏木の室也
年父の子れるよ心とつことハ却而子の真途のさうらるるしと
大らふくを河あふるるわうてこそまじしうと道道あふくまじしとらふく
この尺は 馬河大鏡云 延喜相模第乃ともくうらあふくまじしとらふく
もうせはせめて九月の筈はなれうとまじかり也その目在衛門の陣のまうまてらうともくまじし也
尺あつともち 弄 鷹飼うと不使さるも
あひくんとて 或柳 一本 困
しつし 万水柏木のりてあふく 道具也
れとてその 弄 諸人の泪よらねてらんしと也

あむらうて 細柏木は藤終の対面也
二条の尺やハ弄 廿二宮柏木の室也
年父の子れるよ心とつことハ却而子の真途のさうらるるしと
大らふくを河あふるるわうてこそまじしうと道道あふくまじしとらふく
この尺は 馬河大鏡云 延喜相模第乃ともくうらあふくまじしとらふく
もうせはせめて九月の筈はなれうとまじかり也その目在衛門の陣のまうまてらうともくまじし也
尺あつともち 弄 鷹飼うと不使さるも
あひくんとて 或柳 一本 困
しつし 万水柏木のりてあふく 道具也
れとてその 弄 諸人の泪よらねてらんしと也

○世の中と 細息の初

○うきうき 万木夕霧のふくまわれぬ
ころり

○あひねりなき 細夕霧の初
○世のこころ 何秋名のほきこころは
世れにりとちよのこ
○方のそ 細くするのこころは

うきうき 万木夕霧のふくまわれぬ
ころり
あひねりなき 細夕霧の初
世のこころ 何秋名のほきこころは
世れにりとちよのこ
方のそ 細くするのこころは

○母やとて 弁世二宮のまじり夕霧のこころ
といてはひいも也 細夕霧のこころ

○人よとて 細中をみる人よとて
巴枳柏木よるひいひいひい又柏木よる
れぬのこころは夕霧のこころ也

○こころは 巴枳柏木のこころは意よるひいひい
とあひくもささささささささささささ
あも也

○うらやま 巴枳柏木の世三(心)をさるる
定而うらやまもささささささささ

○うらやま 花をさるるの不足する
てんどの有るまも也心よるまもかまも
細世の人のいふかまも心よるまも
心よるまも人よるまも
又さささささ花をさるるのこころは
ささささささささささささ

うらやま 花をさるるの不足する
てんどの有るまも也心よるまもかまも
細世の人のいふかまも心よるまも
心よるまも人よるまも
又さささささ花をさるるのこころは
ささささささささささささ

樹

とつろハ大將の唐名とし侍軍と号すも其ハ大將軍
又幕下又大樹と名り私勸大納言正三位任陸
奥出羽按察使兼行右近衛大將藤原朝臣保
承平六年七月十四日薨_ノ四十七号八條大將時平公
一男本朝鳳篁元始

それより近世に弁保忠の事此物語の時
代は近しけれはさそも言て惣而してくちう
しりふ事ある事もあらず世中よりいふ事あ
るといふことあり

またその名細くいふ事いふれがの官と云

とつろハ大將の唐名とし侍軍と号すも其ハ大將軍
又幕下又大樹と名り私勸大納言正三位任陸
奥出羽按察使兼行右近衛大將藤原朝臣保
承平六年七月十四日薨_ノ四十七号八條大將時平公
一男本朝鳳篁元始

この若きこと細量也

孟母氏の心いさむるは柏木のふかきとみへむ
ふかきとみへむ也

孟母氏の心いさむるは柏木のふかきとみへむ
ふかきとみへむ也

ふかきとみへむは
柏木のふかきとみへむ
もろのふかきとみへむ
もろのふかきとみへむ
もろのふかきとみへむ
もろのふかきとみへむ



